

平成25年度
外部評価報告書
—短期大学部—



日本大学

目 次

外部評価の実施について	1
外部評価者名簿	5
外部評価結果	
三島校舎に対する評価結果	7
船橋校舎に対する評価結果	25
湘南校舎に対する評価結果	43

外部評価の実施について

1 目 的

本学においては、自己点検・評価の妥当性を担保し改善改革を推進するため、平成16年度に初めて企業等各界で活躍されている有識者による外部評価を実施し、また、第2回目となる平成19年度には本学卒業生による外部評価を行い、その度に評価結果を報告書にまとめ、学内の改善改革に供するとともにこれを社会に公表し本学の改革姿勢を示してきた。

外部評価については、当初平成22年度に実施する予定であったが、同年に財団法人（当時。現在は公益財団法人）大学基準協会による大学評価（認証評価）の受審、平成23年度には法科大学院認証評価（追評価）の受審があり、また、平成24年度は全学自己点検・評価を実施したことにより延期されていた。

そこで、平成25年度には、平成26年度に認証評価受審を予定している短期大学部を対象に外部評価を実施することとし、本学における自己点検・評価の妥当性を担保するとともに、短期大学部各校舎の教職員が相互に評価し合うことで一層の自己点検・評価の活発化を図ることとする。

また、外部評価の結果を短期大学認証評価申請用の点検・評価報告書に反映させ、万全の体制で認証評価に臨めるよう準備することにも活用する。

2 評価者について

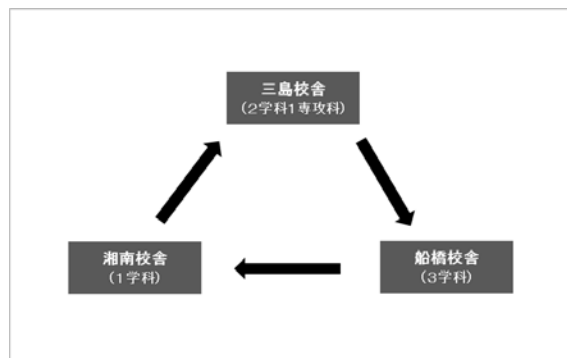
校舎ごとに以下の4名で構成する評価チームを置く。

- ①当該校舎が推薦する学外者（代表者となる） 1名
- ②当該校舎の自己点検・評価委員会委員長
- ③同自己点検・評価委員 1名
- ④同事務職員 1名

3 評価方法

限られた時間内に効率良く評価を実施し、その結果を確実に認証評価申請用『点検・評価報告書』に反映できるよう以下の方法により評価を行う。

- ①各校舎の評価チームは他の1校舎の評価を行うこととし、三島校舎は船橋校舎を、船橋校舎は湘南校舎を、湘南校舎は三島校舎をそれぞれ評価することとする。



- ②各校舎で認証評価申請用書類（「点検・評価報告書」（原案）、「短期大学基礎データ」及び根拠資料）を作成し，本部を通じて各校舎評価チームに評価対象校舎の認証評価申請用書類を送付する。
- ③各評価チームは，評価対象校舎の「点検・評価報告書」（原案）に基づき，点検・評価の妥当性やPDCAが機能しているかなどについて評価を行い，不明の点等あれば，評価対象校に対して書面により質問する。なお，評価チーム内での作業分担等については，各評価チームに一任する。
- ④各校舎は，評価チームからの質問に対し，書面にて回答する。
- ⑤各評価チームが質問に対する回答を確認した上で，全ての校舎の評価チームが一堂に会して，外部評価や今後の改善改革等に関する意見交換を行う。
- ⑥各評価チームの学外者は，チームを代表して意見交換会の結果も踏まえて評価結果をまとめる。
- ⑦各校舎は，評価結果を活用して短期大学認証評価に万全の体制で臨めるように準備する。

4 対象とする評価基準

外部評価では，大学基準協会の定める下記基準の全てを対象に評価を行う。ただし，どの基準に重点を置いて評価を行うかは各評価チームに一任する。

1 理念・目的	2 教育研究組織	3 教員・教員組織
4 教育内容・方法・成果	5 学生の受け入れ	6 学生支援
7 教育研究等環境	8 社会連携・社会貢献	9 管理運営・財務
10 内部質保証		

5 評価結果の構成について

評価は，基準ごとに「評価できる点」，「問題点・今後の課題」及び「報告書の記載内容に対する評価，コメント」欄があり，最後に全体的な評価を記入した「評価総括」欄で構成されている。外部評価者が各欄に記載する内容は次のとおりである。

①「評価できる点」

短期大学部各校舎が掲げる理念・目的，教育目標の実現に向けた取り組みに有効性が顕著に認められる場合，今後更なる伸長が望まれる点や各校舎の特色を示すものとして特記すべき事項を記載する。

②「問題点・今後の課題」

各校舎の取組において，今後改善が必要な問題点や課題，更なる強化が望まれる事項等を記載する。

③「報告書の記載内容に対する評価，コメント」

基準ごとの「点検・評価報告書」における記載内容を下記の基準に基づきA，B，Cで評価する。また，文章表現や体裁等で気になる箇所がある場合は，コメント欄に記載する。

A	B	C
報告書は十分に記載されており, 全く問題ない	気になる箇所はあるものの, 概ね問題は無い	気になる箇所が散見され, 更なる精査が必要

④「全体評価」

各基準における評価・コメント等を総括して, 全体的な評価を記載する。

6 外部評価実施スケジュール

平成 25 年

- 4 月中旬 外部評価実施方法を決定
- 5 月上旬 外部評価者の人選
評価資料（「点検・評価報告書」, 「基礎データ」等）作成開始
- 6 月 21 日 外部評価者打合せ会の開催 [日本大学会館]
- 10 月中旬 各校舎から評価資料（「点検・評価報告書」, 「基礎データ」等）の提出を受けて外部評価者に評価資料を送付
- 10 月下旬 評価対象校舎への質問事項の送付, 回答
～11 月中旬
- 11 月 27 日 外部評価者が一堂に会しての意見交換会 [日本大学会館]
学外評価者を中心に外部評価結果の取りまとめ

平成 26 年

- 1 月中旬 外部評価結果完成
- 2 月下旬 各校舎から提出された外部評価結果をもとに「外部評価結果報告書」を作成

以 上

外部評価者名簿

評価対象校舎	評価者氏名	選出区分	所属，役職等
三島校舎	松井 信行	①	学校法人恵泉女学園 中学・高等学校教諭
	島田 正文	②	短期大学部湘南校舎 生物資源学科長 教授
	安齋 寛	③	短期大学部湘南校舎 生物資源学科 教授
	梶 一夫	④	通信教育部事務長 (前 生物資源科学部事務長)
船橋校舎	黒萩 道義	①	元 三島市立山田小学校校長 本学卒業生
	宮川 幸司	②	短期大学部三島校舎 ビジネス教養学科 教授
	中島 久男	③	短期大学部三島校舎 食物栄養学科 教授
	寺島 幸一	④	国際関係学部事務長
湘南校舎	並木 雅俊	①	高千穂大学学長
	山田 賢治	②	短期大学部船橋校舎 ものづくり・サイエンス総合学科長 教授
	西村 克史	③	短期大学部船橋校舎 生命・物質化学科 教授
	吉澤 誠	④	理工学部(船橋校舎)事務長

※ 外部評価者の選出区分は以下のとおり

- ①学外者
- ②短期大学部各校舎の自己点検・評価委員会委員長
- ③短期大学部各校舎の自己点検・評価委員会委員
- ④事務職員

以 上

三島校舎に対する評価結果

[基準 1] 理念・目的

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を適切に設定しているか。
- (2) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を短期大学構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表しているか。
- (3) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的については履修要覧などにおいて明確に設定し構成員に対して周知されている。新たに出発したビジネス教養学科においては、まだ改変の効果は未知数であるが、その目的は明確にされていると思われる。食物栄養学科においては栄養士の免許取得に加えて管理栄養士取得への具体的な方法も示されており評価できる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス教養学科においてはその理念は明らかであるものの、「広い視野と豊かな教養」の含む範囲が広すぎて捉えにくい面がある。視野・教養のどの部分に力点を置くか明示するとよい。 ・食物栄養学科は栄養士の養成ということを明確に示し、さらに管理栄養士の取得をうたっているが、管理栄養士取得を強調しすぎると、初めから四年制大学に進学を促す結果となりかねない。むしろ栄養士取得者のキャリアアップという面を強調したほうが良いとも思われる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B-
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B-
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B-
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「周知」の具体性に欠ける。HPのみならず高校生や保護者にも様々な方法で周知・公表していると思われるが。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。

[基準 2] 教育研究組織

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学の学科・専攻科等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
- (2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科名称・カリキュラムの改定を行い，社会への対応を図っている。 ・ 新学科の検討を行っている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食物栄養学専攻を修了後一年の実務経験後に管理栄養士の国家試験受験資格が取得できるが，他の四年制大学の管理栄養士学科では実務経験なくとも国家試験受験資格取得が可能である。他大の管理栄養士養成学科はどこでも入学の難易度が増している。本学科もできるだけ早期に四年制大学へと移行すべきと思われる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・ 点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B-
・ 記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B-
・ 誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B-
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「点検・評価結果」において，各学科を4年制にする新学科設置検討委員会を設けて検討し，答申したとの記載があるが，「将来に向けた発展方策」には何も記載が無い。根拠資料に答申の内容が示されていない（記載が困難であろうが，記載がある以上，認証評価では資料の提出を求められる可能性がある）。 ・ 組織論では無い記載が含まれている。また，内容に具体性が欠ける。さらに，定期的な検証についての記載方法も同様である。 ・ 学部委員会規程で定めていない「臨時委員会等」とはいかなるものか，具体的な説明が記載されていない。また，「学部」という語句があるが具体的説明がない。 ・ 「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 	

[基準3] 教員・教員組織

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学として求める教員像及び教員組織の編制方針を明確に定めているか。
- (2) 学科・専攻科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
- (3) 教員の募集・採用・昇格等を適切に行っているか。
- (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
- (5) 短期大学と併設大学との関係は適切であるか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観を実施しているのは、評価できる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・昇格に関する取り決めは内規により示されているが、昇格の基準が明確でない。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。 	B-
<ul style="list-style-type: none"> ・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。 	B-
<ul style="list-style-type: none"> ・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。 	B
<div style="display: flex;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; background-color: #e0e0e0; padding-right: 5px;">コメント</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートや教員相互の授業参観はFDの一環であるが、次項の「教育内容・方法・成果」に根拠資料の記載が全くないため「教育内容・方法・成果」へ移動しても良いのではないか。 ・点検・評価項目のうち、「短期大学として求める教員像」や「教員組織の編成方針」に沿った記載となっていない箇所がある。 ・FDに関する記載が具体的でなく、学外者には理解できない記載となっている。 ・国際関係学部との人的交流について、相互に講義を担当している旨の記述があるが、講義以外の関係については記載されていない。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 </div> </div>	

[基準4] 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

【点検・評価項目】

- (1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
- (2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
- (3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を短期大学構成員(教職員及び学生等)に周知し, 社会に公表しているか。
- (4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

①評価できる点(伸長すべき点, 取組が効果を上げている事項など)
<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標や学位授与方針などは履修要覧・ホームページなどに明示されている。その表記方法も明確である。

②問題点・今後の課題(改善すべき点, 強化が望まれる事項など)
<ul style="list-style-type: none"> ・「カリキュラム改定の検討」において, 再び「新学科検討委員会の答申」が記載されているが, 根拠資料が示されていない。 ・「改善すべき事項」として, ビジネス教養学科の定員充足の問題が示されているが, 「将来に向けた発展方策」には記載が無い。なお, この内容については, 「基準5 学生の受け入れ」で記載すべきではないか。

③報告書の記載内容に対する評価, コメント	評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B-
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B-
・誤字や脱字, わかりにくい表現はないか。	B-
コメント <ul style="list-style-type: none"> ・文中に「多くの関係者」とあるが, 具体的に記載する必要がある。 ・入学定員確保ための方策の記載が必要では無いか。 ・「余地がある」という表現は適切ではないため, 修正する必要がある。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 	

[基準4] 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容

【点検・評価項目】

- (1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
- (2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「履修要覧」などに明確に記載されており，卒業要件も明示されている。 ・資格取得への対応が行われている。 ・入学前教育が実施されている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス教養学科の目的・教育方針は明確であるが，その目的を達成するには2年間の課程では時間的な余裕がない。将来的な四年制大学への移行検討はもちろんのことではあるが，現状では講義終了後の補習などに学習時間を確保し、より目的達成に努める時間確保が必要であると思われる。また、ビジネス教養学科の「特殊講義Ⅰ・Ⅱ」について，他大学編入の際の単位互換の意味から互換可能な名称に変更することの可能性を検討することも考えられる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B-
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育課程・教育内容」において，根拠資料の記載が無い。例えば専攻科食物栄養専攻の「特別研究」のテーマ一覧を示すなど，根拠資料を増やす必要があるのではないか。 ・成績不良者や実験不得手者への対応についての記載があっても良いのではないか。 ・他の基準も同様だが，具体的数値を使用して説明したらどうか。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。

[基準4] 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法

【点検・評価項目】

- (1) 教育方法及び学習指導を適切に行っているか。
- (2) シラバスに基づいて授業を展開しているか。
- (3) 成績評価と単位認定を適切に行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・入学前学習の導入は評価できる。ビジネス教養学科における幅広い知識の習得や食物栄養学科での小学校，事業所，病院等での実習は卒業後の就職先・進路開拓に向けての取組として評価できる。 ・専門・職業に関する科目の配置は評価できる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス教養学科は学科改組したばかりであり，また，幅広い知識を学ぶため多岐にわたる講義科目を展開しているが，学生の就職傾向などの方向性が定まったときには，履修者の少ない講義などを精査して，学科全体の学びを強化する必要があると考えられる。 ・編入指導の充実が望まれる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		B-
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA制度による成績評価を実施しているが，GPAが「卒業の要件」に含まれているのか，また，「GPA履修指導」とはどのような内容かを説明することが望ましい。 ・「シラバスと授業内容の整合性は，授業評価アンケートの質問事項とすることで，同基準を充足している」とあるが，それだけで基準を充足しているとは言えないのではないか。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 	

[基準4] 教育内容・方法・成果 (4) 成果

【点検・評価項目】

- (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
- (2) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
- (3) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①評価できる点（伸ばすべき点，取組が効果を上げている事項など）
特になし

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・旧商経学科における日本商工会議所簿記検定試験の合格率は4.8%であり，また，実用英語技能検定の合格率は22.6%といずれも合格率が低い状況にある。関係ある講義内容の再検討と講義以外における補習の実施等の充実が望まれる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		C
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		C
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		C
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科食物栄養専攻では，授業評価アンケート結果をどのように公表しているのか，その具体的根拠資料が示されていない。 ・本点検・評価項目に関する事項について，全体的に記載が不足あるいは無い。 	

[基準 5] 学生の受け入れ

【点検・評価項目】

- (1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。
- (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。
- (3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- (4) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集と入学者選抜を公正かつ適切に実施しているかについて、定期的に検証を行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の受け入れ方針は短期大学当該学科のビジョンを明確に示している。 ・編入学についても各種講座や独自ガイダンス設置（ビジネス教養学科）等の方法で支援している。 ・商経学科からビジネス教養学科への改組に当たり、定員を減らしたことにより充足率を改善させたことは評価できる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス教養学科が引き続き定員充足を確保するため、編入学へのバックアップの強化と主な編入先である国際関係学部の人気の上昇が必要である。引き続き入学した学生の状況を精査して、ターゲットを絞った学生募集を展開する必要がある。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定		
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	C		
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B-		
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50px; vertical-align: middle;">コメント</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・学生募集及び入学者選抜の公正性，適切性に関する記述がなく，また，それについて定期的に検証を実施しているかについても記載が無い。 ・定員未充足に対する今後の方策についての記載が不十分である。 ・障がいのある学生の受け入れ方針に関する記載がない。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 </td> </tr> </table>	コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集及び入学者選抜の公正性，適切性に関する記述がなく，また，それについて定期的に検証を実施しているかについても記載が無い。 ・定員未充足に対する今後の方策についての記載が不十分である。 ・障がいのある学生の受け入れ方針に関する記載がない。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 	
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集及び入学者選抜の公正性，適切性に関する記述がなく，また，それについて定期的に検証を実施しているかについても記載が無い。 ・定員未充足に対する今後の方策についての記載が不十分である。 ・障がいのある学生の受け入れ方針に関する記載がない。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 		

[基準6] 学生支援

【点検・評価項目】

- (1) 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。
- (2) 学生への修学支援を適切に行っているか。
- (3) 学生の生活支援を適切に行っているか。
- (4) 学生の進路支援を適切に行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・全学生への担任教員の配置など，学生のメンタル面での支えには十分な配慮がされている。また遠隔地からの学生に対しても奨学金を支給するなど金銭面でも修学をサポートしていることは評価できる。 ・入学時からの就職対策については評価できる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者に対する進路支援について，更に詳細に記載した方が良いのではないか。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評定
<ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。 		B-
<ul style="list-style-type: none"> ・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。 		B-
<ul style="list-style-type: none"> ・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。 		A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「(2) 学生への修学支援」の項目についての記載が，三島校舎全体を対象としているのか専攻科のみを対象としているのかが明確でない。 ・健康診断やメンタルヘルス調査の実績等の根拠資料が示されていない。 ・日本大学全学との関係（インターカー等）を記載した方が良い。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 	

[基準 7] 教育研究等環境

【点検・評価項目】

- (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。
- (2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。
- (3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。
- (4) 教育研究等を支援する環境や条件を適切に整備しているか。
- (5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
特になし

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災以降，校舎の安全に関する意識は高まっており，耐震化の遅れている校舎については早急に対策が必要であろう。また遠隔地から通学している学生のために数日間の食料等を備蓄し，「履修要覧」などに明文化しておくことが望ましい。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	C
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B-
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B-
コメント <ul style="list-style-type: none"> ・「教育研究等環境の整備に関する方針の明確化」に関する記載が不足している。 ・NACSIS-I L Lの年間利用実績が記載されているが，国際関係学部と短期大学部三島校舎全体の実績なのか，短期大学部三島校舎のみの実績なのかが不明確である。 ・記載内容と根拠資料の関係を明確にする必要がある。 ・表現方法や記載方法に正確さに欠ける（「おおくの」，「どちらかと言えば」），また字体が不統一である。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 	

三島校舎に対する評価結果

[基準 8] 社会連携・社会貢献

【点検・評価項目】

- (1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。
 (2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・社会との連携のための各種講座の実施していることは評価できる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
特になし

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B-
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B
コメント <ul style="list-style-type: none"> ・「ハローワーク沼津」による就職支援について記載されているが、「基準6 学生支援」で記載すべきである。 ・「社会との連携・協力に関する方針」について明示されていない。 ・食物栄養学科の学生を中心に実施されている「ハワイ大学における語学及び専門教育講座」について，どのような手続きのもとに実施されたのか，特に前掲の教育との関係が説明されていない。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 	

[基準 9] 管理運営・財務 (1) 管理運営

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。
- (2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。
- (3) 短期大学業務を円滑に行う事務組織を設置し、十分に機能させているか。
- (4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

①評価できる点 (伸長すべき点, 取組が効果を上げている事項など)
特になし

②問題点・今後の課題 (改善すべき点, 強化が望まれる事項など)
特になし

③報告書の記載内容に対する評価, コメント		評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		—
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		—
・誤字や脱字, わかりにくい表現はないか。		—
コメント	・具体的な記述がないため, 評価が困難である。	

三島校舎に対する評価結果

[基準 9] 管理運営・財務 (2) 財務

【点検・評価項目】

- (1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。
 (2) 予算編成及び予算執行を適切に行っているか。

①評価できる点 (伸長すべき点, 取組が効果を上げている事項など)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生生徒納入金の収入減の中で消費収支バランス改善のため, 人件費や経費の抑制を行っていることは評価できる。

②問題点・今後の課題 (改善すべき点, 強化が望まれる事項など)
特になし

③報告書の記載内容に対する評価, コメント		評定
・ 点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		A
・ 記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		A
・ 誤字や脱字, わかりにくい表現はないか。		B
コメント	特になし	

[基準 10] 内部質保証

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。
- (2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。
- (3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。

①評価できる点（伸ばすべき点，取組が効果を上げている事項など）
特になし

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
特になし

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		C
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		C
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		C
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・記載内容全般にわたって具体性に乏しい。 ・日本大学全学との関係についての記載がない。 ・組織を整備してあることは理解できるが，実際にどのように運用しているかについての記載がない。 ・「啓蒙」は「啓発」に修正することが望ましい。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 	

[基準 11] 特色ある取り組み

【点検・評価項目】

(1) 短期大学が組織的に行っているユニークな取り組みの実施状況とその有効性

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携による商品開発（「プロジェクトM」）を行い，地域にとけ込んで教育活動を行っている点は評価できる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
特になし

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	C
コメント <ul style="list-style-type: none"> ・文中に変換ミス，字体の不統一，文章表現の不統一が多い。 ・「2. 点検・評価」に関する事項の記載が不足あるいは無い。 	

三島校舎に対する評価結果

[三島校舎評価総括]

評価概況
<p>・短期大学部三島校舎として、現状をよく認識し、対応していると評価できる。また、商経科をビジネス教養学科に改変したことによる効果はまだ評価できる段階にないと思われるが、定員充足率の向上、維持が図られることが期待される。食物栄養学科及び専攻科食物栄養専攻においては栄養士養成のプログラムは評価できるものの、管理栄養士取得希望者が増える現状では早期にその対応も検討されるべきであろう。</p>
評価できる点（伸ばすべき点、取組が効果を上げている事項など）
<p>・三島駅前にサテライト的に校舎を設置して、教育効果を高めるなど各種の工夫がなされている。地元に着した商品開発なども、進学希望者の確保や就職先の開発に繋がり評価できる。また、学生への朝学習をはじめとする学習へのサポートも基礎的な学力の増進となり、長期的に学生の学力を伸ばすことになるとと思われる。</p>
問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<p>・最大の問題点は定員の充足率向上（退学者の削減を含む）とそれに伴う学力向上にある。また、財政的にも消費収支のバランスを求められるなか、研究環境を確保しつつ、教育の質を向上させる方策が必要となる。</p>
その他
<p>・次の事項については、今後対応策を講じる必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none">①専任教員のうち2名について、研究業績欄に記載が無い。②「点検・評価報告書」は日本大学関係者以外の外部者にも理解できるように記載する必要がある。③「点検・評価報告書」を記載するに当たっては、「点検・評価項目」に基づいて記載するとともに、数値等を使用するなど具体的かつ的確に記載する必要がある。④記載内容に対応したエビデンスを添付する必要がある。⑤字体や文章表現等を統一するなど体裁を整える必要がある。

以 上

船橋校舎に対する評価結果

船橋校舎に対する評価結果

[基準1] 理念・目的

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を適切に設定しているか。
- (2) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を短期大学構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表しているか。
- (3) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学・学科の理念・目的の設定については，短期大学及び3学科において，適切に設定されている。 ・短期大学・学科の理念・目的の適切性についての定期的な検証については最終的には完成年度を待ってということだが，現在すでに学務委員会においてアンケート調査の設問を検討中ということで，評価できる。 ・現在学生への説明の時期が遅いとされる短期大学・学科の理念・目的の周知について，その改善策が示されていることは評価される。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・目指すべき人材像及び各学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的について，まだ十分周知されているとは言えないとのことで，それに対する改善策が教職員研修会や各委員会での可能な限りの引用となっているが，それで目的が果たせるのか，もう少し具体的な強化が必要なのではないか。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・質問事項に対して回答があったが，本学の教職員以外には「教職員研修会」などの言葉の意味を説明することが必要だと思われる。 ・「短期大学部要覧」とホームページの記載を整合性のあるものにしたい。特に，学生により分かりやすくする必要がある。

[基準 2] 教育研究組織

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学の学科・専攻科等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
- (2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念・目的に沿って各学科に専門分野を明確に定め，それぞれに必要な専任教員を配置するように努めている。しかし，卒業生の進路として理工学部への編入学が多数を占めるため，理工系短期大学としての社会的使命がどこにあるか説得力に欠く面もある。 ・企画調整委員会は理念・目的と教育研究組織の適切性を年度ごとに検証する体制ができており，改善の必要性が生じた場合には改善策を策定し，学科長・主任会議で改善計画を立て，理工学部長に上申するシステムが機能している。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・船橋校舎の教育研究組織については，各学科が抱える専門分野が多岐にわたっているため，社会のニーズの変化や学生の志望分野に変化が生じるので，迅速な対応ができるシステムの構築が必要である。 ・企画調整委員会の構成員を幅広く起用することで，多様で柔軟な検証が望まれるとともに，迅速な将来計画が求められる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		B
コメント	・改組に伴う効果が見られる。	

[基準3] 教員・教員組織

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学として求める教員像及び教員組織の編制方針を明確に定めているか。
- (2) 学科・専攻科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
- (3) 教員の募集・採用・昇格等を適切に行っているか。
- (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
- (5) 短期大学と併設大学との関係は適切であるか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね専任教員がバランス良く配置されている。 ・教員相互の授業参観，教職員研修会並びに各種FDに関するシンポジウム等出席した教員による報告会の実施は評価できる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部と連携することも必要であるが連携が多すぎる感がある。短期大学部独自のものももう少し必要かと思う。 ・ものづくり・サイエンス総合学科は，領域を広くしているので出来る限り専任教員で専門分野をカバーすることが望まれる。 ・教員の年齢別構成のさらなる均等化が望まれる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		B
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「現状説明」は学科ごとに記載する必要があるにもかかわらず記載がない学科がある。 ・学生指導の成果もポイントにすることの取り組みが将来の大学に求められている。 	

[基準 4] 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

【点検・評価項目】

- (1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
- (2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
- (3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を短期大学構成員(教職員及び学生等)に周知し, 社会に公表しているか。
- (4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

①評価できる点 (伸長すべき点, 取組が効果を上げている事項など)
<ul style="list-style-type: none"> ・「(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか」及び「(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか」について, よく書かれている。

②問題点・今後の課題 (改善すべき点, 強化が望まれる事項など)
<ul style="list-style-type: none"> ・(1)(2) の点検・評価項目については短期大学部全体と3学科について詳細な説明があるが, 「(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の周知」, 「(4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の検証」の項目については, 1学科の説明はあるが, 2学科の説明がない。

③報告書の記載内容に対する評価, コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字, わかりにくい表現はないか。	B
コメント <ul style="list-style-type: none"> ・「教室会議」という語句は学外者にはわかりづらいので説明が必要と思われる。 ・短期大学部船橋校舎が目指すべき人材像について, 学生に理解できるよう更なる改善を期待したい。 	

[基準4] 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容

【点検・評価項目】

- (1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
- (2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン教育の重点化が見られる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・一般教育の英語及び国語について問題点が指摘されているが，今後の具体的な改善策が示されていないように思われる。 ・本点検・評価項目では，学科ごとに現状を説明する必要があるにもかかわらず，説明が記載されていない学科がある。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評定
	・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
	・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
	・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・指摘した誤字については改善されている。 	

[基準4] 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法

【点検・評価項目】

- (1) 教育方法及び学習指導を適切に行っているか。
- (2) シラバスに基づいて授業を展開しているか。
- (3) 成績評価と単位認定を適切に行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の達成のため講義，演習，実験がバランスよく開講されており，履修科目の上限も適切に設けられている。また，全学期にわたりゼミナールが開講され，学生の主体的学習を促す努力がなされている。さらに，春，夏休み中の体験型学習を設けている点は，学生が主体的学習を促している。また，基礎学力の向上を目指し，学修達成度に応じたクラスを設けて少人数の指導を行っている点は評価できる。 ・開講科目のシラバスは学生に周知されており，授業内容・方法については授業評価アンケートにより検証されている。 ・成績評価にはGPA制度を取り入れられ標準化されている。学生の授業内容理解度は，平常時から学科教員間でチェックされ評価している。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・一般教育科目の目的として理工系科目の基礎学力向上とする引き上げ教育となっているので，他の教養科目や語学系科目とのバランスを考慮されたい。 ・シラバスに基づいて授業がなされているか検証する仕組みは，授業評価アンケートで行われているが，担当教員の判断に任されているので，確実に改善につながっているか集計し分析する必要がある。指摘されるように科目間でシラバスの共通化が必要である。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・各項目とも最初に船橋校舎で共通した内容が書かれ，次に各学科の内容が示されているが，記述されていない学科が多い。記述がない学科は何もしていないと評価されてしまうので，学科に共通した点と学科間の相違点や特徴があれば，その点を明確に分けて書いた方が解りやすいと考えられる。

[基準4] 教育内容・方法・成果 (4) 成果

【点検・評価項目】

- (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
- (2) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
- (3) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験を改めて平常時の理解度をテストすることで，学生の基礎学力の向上にもつながったことは評価できる。また，学修成果を評価するシステムや能力別クラス編成の導入，基幹科目の入学前講座の実施は一定の成果が上がっている。 ・ 教員による授業の相互参加を学期ごとに行い，教職員教育改善委員会が母体の教職員研修会で意見交換が行われている点は評価できる。また，授業・カリキュラム満足度調査もスタートさせ授業の改善に努めている。 ・ 事前に専任教員による教室会議で学生の卒業単位履修について検討しゼミナール教員が指導している。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 語学など基幹科目以外の底上げ教育も必要と考えられるので，今後適切なシステムを検討されたい。 ・ 授業評価アンケート，授業・カリキュラム満足度調査をどのような形で学生に公開し，学生の教育に役立つようにするか検討が必要である。 ・ 学位授与については，専任教員による卒業判定会議で学生の卒業単位履修について審議するなかで，卒業単位認定が教育の目標に沿った形で適切に行われているか，一定の基準が必要と考えられる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評定
・ 点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		B
・ 記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		B
・ 誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科共通事項と学科個別事項が明確でないので，内容の整理統合が望まれる。 ・ 短期大学の専門学校化，専門学校の短期大学化が叫ばれている。各種資格について力を入れても良いではないか。 ・ 留年率を低下させることを課題としたい。 	

[基準 5] 学生の受け入れ

【点検・評価項目】

- (1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。
- (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。
- (3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- (4) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集と入学者選抜を公正かつ適切に実施しているかについて、定期的に検証を行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生受け入れの「現状の説明」について、具体的にわかりやすく書かれている。 ・各種の選抜方法が試みられている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「将来に向けた発展方策」についての記載がない。 ・受験生はホームページを見て受験の可否を判断するので、ホームページの一層の充実を望む。

③報告書の記載内容に対する評価、コメント		評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		A
コメント	・「効果が上がっている事項」と「改善すべき事項」のいずれも記載がなく，評価不能の部分があった。	

[基準6] 学生支援

【点検・評価項目】

- (1) 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。
- (2) 学生への修学支援を適切に行っているか。
- (3) 学生の生活支援を適切に行っているか。
- (4) 学生の進路支援を適切に行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生と担任とのマッチングも考慮し，クラス担任制と少人数のグループ担任制を設けている点は大いに評価できる。 ・理工学部奨学金制度に組み込まれた修学支援は，選考委員会で適切に運用され充実している。 ・学生の生活支援については，臨床心理士を有するカウンセラー，インテーカー資格を持つ教員によって学生相談室が運営され，様々な相談を受ける体制が整っている。また，教職員への情報提供や研修も行われている。 ・進路支援については，就職指導委員会，就職指導課，キャリア支援センターが個々の学生にあった指導を行っている。また，ゼミの教員により直接指導する体制が整っている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援に関する方針の策定に当たっては，学生指導委員会などの委員会がどのように関わっているか明確でない。 ・生活支援については，経済的に困窮している学生への支援の在り方などの検討が必要と考えられる。 ・キャリア支援講座は学部学生が中心となりがちになる傾向があるので，開講時期・時間，内容などをより短大生の実情に合ったものに検討する。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援への基本を見直す必要がある。社会は資格取得を求めている。 ・学生の将来の人生マネジメントを視野に入れた支援を望む。

[基準 7] 教育研究等環境

【点検・評価項目】

- (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。
- (2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。
- (3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。
- (4) 教育研究等を支援する環境や条件を適切に整備しているか。
- (5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究環境が学部と共有している点は，有効でありさらなる利用が望まれる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「(4) 教育研究等を支援環境の整備の適切性」の具体的記述が望まれる。 ・防災，減災害の観点から新校舎，耐震化などの構想も示して行きたい。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コメント <ul style="list-style-type: none"> ・学部の施設全てを共同で利用出来ているのか疑問である。 ・図書館の選書ツアーに短大生がどれくらいの割合で参加しているのか，具体的な人数を記載した方が望ましい。 	

[基準 8] 社会連携・社会貢献

【点検・評価項目】

- (1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。
 (2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「現状の説明」について，具体的にわかりやすく書かれている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「将来に向けた発展方策」についての記載がない。 ・短期大学生の機動性，地域への貢献は今後ますます求められる。早急な具体化を望む。 ・研究成果と地域とのパートナーシップも短期大学部船橋校舎こそ可能であると思う。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定		
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B		
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B		
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50px; vertical-align: middle;">コメント</td> <td>・理系の社会還元はこれからの財産になるので努力してほしい。</td> </tr> </table>	コメント	・理系の社会還元はこれからの財産になるので努力してほしい。	
コメント	・理系の社会還元はこれからの財産になるので努力してほしい。		

[基準 9] 管理運営・財務 (1) 管理運営

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。
- (2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。
- (3) 短期大学業務を円滑に行う事務組織を設置し、十分に機能させているか。
- (4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・研修旅行並びに研修会の開催は有効であり評価できる。 ・寄付行為に則り運営が適切に行われている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・理工学部の方針に従うのは理解できるが，独自の管理運営方針が望まれる。 ・研究事務課が船橋校舎には配置されていないので人的等の手当が望まれる。 ・研修会参加（教員・職員）に伴うP D C Aサイクルの機能の明確化を図るべきである。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		A
コメント	・財政計画などシビアに検証して将来像を示していただきたい。	

船橋校舎に対する評価結果

[基準 9] 管理運営・財務 (2) 財務

【点検・評価項目】

- (1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。
 (2) 予算編成及び予算執行を適切に行っているか。

①評価できる点 (伸長すべき点, 取組が効果を上げている事項など)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算管理は適切に行っている。 ・ 将来5年間の長期計画が示されている。

②問題点・今後の課題 (改善すべき点, 強化が望まれる事項など)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 決算を次年度予算に適切に反映するべきである。

③報告書の記載内容に対する評価, コメント	評定
・ 点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・ 記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・ 誤字や脱字, わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公認会計士の適切なアドバイスを受けながら運営をされている。

[基準 10] 内部質保証

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。
- (2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。
- (3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「点検・評価報告書」に記載がなかったため評価不能である。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「点検・評価報告書」に記載がなかったため評価不能である。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。 	—
<ul style="list-style-type: none"> ・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。 	—
<div style="display: flex;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">コメント</div> <div style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「点検・評価報告書」に記載がなかったため評価不能である。 ・学内で共通理解された目標＝計画があるのか？→それにしただった実践＝D O→実践後の反省があるのか＝チェック・・・。早急に示すことを要望する。 </div> </div>	

船橋校舎に対する評価結果

[基準 11] 特色ある取り組み

【点検・評価項目】

(1) 短期大学が組織的に行っているユニークな取り組みの実施状況とその有効性

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭の時期に行われている「ものづくり&サイエンスフェア」は，失われつつあるモノづくりの楽しさや科学の面白さを地域の市民に伝える貴重な機会となっており，地域に定着して地域貢献に役立つものである。 ・建築・生活デザイン学科の「ものづくりワークショップ」は，学生の想像力をかき立て創意工夫を向上させる良い機会になっている。また，専門家など社会人との交流を通じて，学生を成長させる優れた科目内容である。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくり&サイエンスフェア」の企画運営に学生が積極的に参加するシステムが望まれる。「ものづくりワークショップ」を他学科で行う場合，どのように魅力的なものにしたらよいか検討されたい。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		A
コメント	・船橋校舎の特長と産業界の動きをマッチさせながら発展してほしい。	

船橋校舎に対する評価結果

[船橋校舎評価総括]

評価概況

- ・「点検・評価報告書」が未完成のなかの評価作業であったので不都合な部分があった。
- ・改組の初年度にあたり新しく船出したばかりの各科の報告が見られ、外部評価者としてこれらに期待している。
- ・3学科の特色を色濃く表現すべきだったのではないか。

評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）

- ・学生の受け入れ，支援など効果が出ている事が理解できた。
粘り強い取り組みが実を結ぶと思う。学力向上の取り組みは地味であるが重要である。
- ・学部と連携している研究環境を生かしている。この事を一層伸長させていくべきではないか。

問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）

- ・企業の海外展開→ものづくり力=これらにフィットする理工系短大の特色がある。学生の意欲喚起に役立つのではないか。キャリア教育の中に現代社会の動きと将来社会で生きる人生のマネジメント力を身につけさせて欲しい。
- ・未来志向の学生指導を一層望みたい。

その他

- ・「点検・評価報告書」が未完成だったので、提出期日に間に合うように作業をして欲しかった。
- ・今後は報告書の意義＝大学の質の向上を充分理解して取り組んでほしい。

以 上

湘南校舎に対する評価結果

湘南校舎に対する評価結果

[基準 1] 理念・目的

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を適切に設定しているか。
- (2) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を短期大学構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表しているか。
- (3) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本大学及び日本大学短期大学部の理念・目的（使命の意を含む）に基づき，生物資源学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を短期大学部学則に定めている。 ・ 理念・目的は，短期大学部(湘南校舎)の特徴に合わせて適切に設定され，構成員（教職員及び学生等）に周知され，ホームページ等を通して社会に公表されている。また，卒業時の教育改善に関わる意識調査を用いて，検証されている。 ・ 平成 20 年度から卒業時に教育改善に係わる意識調査を実施し，学科の理念・目的やそれに基づく教育システムを検証している。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物資源科学部のホームページのみではなく，短期大学部(湘南校舎)のホームページにも理念・目的を掲載すべきである。 ・ 学科の理念・目的の適切性について，学生による評価だけではなく，教職員や学外者による評価も加えて，検証していくことが望ましい。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・ 点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・ 記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・ 誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B
<div style="display: flex;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; background-color: #e0e0e0; padding-right: 5px;">コメント</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「体験」と「実践」の具体的な違いが分かりにくい。 ・ 「2. 点検・評価」の記述において，「基準 1 の充足状況」について記載することが必要である。 ・ 「2. 点検・評価」の「②改善すべき事項」に対して，「3. 将来に向けた発展方策」にその改善方策が記載されていない。 ・ 本文中に根拠となる資料を明示することが必要である。 </div> </div>	

[基準 2] 教育研究組織

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学の学科・専攻科等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
- (2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学部（湘南校舎）の理念・目的に基づいて生物資源学科を設置するとともに、その理念・目的を実現するために必要な図書館、博物館、種々の研究所等を整備している。 ・教育研究の運営に係わる組織は、人的にも施設のにも、適切であるといえる。短期大学部の種々の委員会のみではなく、生物資源科学部においてもその適切性が検証されている。 ・教育組織検討委員会〔構成員：短期大学部（湘南校舎）次長，生物資源学科長，生物資源科学部次長等〕，人事委員会〔構成員：短期大学部（湘南校舎）次長，生物資源学科長，生物資源科学部執行部〕，短期大学部自己点検・評価委員会〔構成員：生物資源学科教授・准教授，事務長，庶務課長〕を設置し，教育研究組織の適切性の検証を含めて，教育研究に係わる様々な検討を行っている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究組織の適切性を検証するに当たり，3委員会（教育組織検討委員会，人事委員会，短期大学部自己点検・評価委員会）それぞれの権限や相互の関係，検証のための手続やプロセスについて説明がない。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評価（※）
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B
コメント <ul style="list-style-type: none"> ・本文に脱字が散見されるので見直した方がよい。 ・「2. 点検・評価」の記述において，「基準2の充足状況」について記載することが必要である。 ・「2. 点検・評価」の「①効果が上がっている事項」に対して，「3. 将来に向けた発展方策」にその取組を更に伸張させるための方策又はその効果を維持するための方策が記載されていない。 ・「2. 点検・評価」の「②改善すべき事項」に対して，「3. 将来に向けた発展方策」にその改善方策が記載されていない。 ・本文中に根拠となる資料を明示することが必要である。 	

[基準3] 教員・教員組織

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学として求める教員像及び教員組織の編制方針を明確に定めているか。
- (2) 学科・専攻科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
- (3) 教員の募集・採用・昇格等を適切に行っているか。
- (4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
- (5) 短期大学と併設大学との関係は適切であるか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員数は，短期大学設置基準上必要専任教員数を満たしている。 ・教員の募集・任免・昇格については「日本大学生物資源科学部教員の採用，昇格及び再任に関する内規」に準じて適切に行われている。 ・教授，准教授，助教，助手の採用及び昇格審査基準は，標準的である。 ・併設学部との教育支援体制は，専門分野に関しては専任教員だけでなく併設学部の教員が非常勤講師として授業を行い，相互人事異動も行われており，両組織の人的交流が活発になされている。 ・FD活動は併設学部と一体化の下で実施し，教員の意識向上を図っている。 ・多くの助教以上の教員は，研究活動及び社会的活動に取り組んでいる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ここ5年ほど研究業績がない教授が半数ほどいる。教員の個人責任ともいえるが，高等教育の教員の質は研究活動に基礎基盤をおいているため研究活動は大学教員として必要不可欠であり，この行為を継続していくことが，教育の質向上に寄与することになる。努力していただきたい。 ・採用及び昇格審査基準として教育業績に関する基準を設けるような工夫の必要性を感じた。高等教育の質を高めるべく，多くの学会が教育誌を発行している。これらにも教育論文を投稿するなどし，教育研究業績をさらに上げていただくことを提案する。 ・教員の年齢構成はおおむねバランスよく保たれているように見えるが，30歳代以下の教員が少なく，教員の高齢化につながる恐れがあるので，今後の採用時に配慮する必要がある。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評価（※）
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の大学生には，履修登録を適切に行っているのか，単位の修得ができているか，それに出席は大丈夫なのかなど，気にかかる箇所が多くみられる。履修登録，単位の修得状況，出欠の管理は，専任教員の業務の一つとなってきた可能性はある。専任教員が1学年当たり12，13名ほどの学生の履修等の指導に当たってはみることを提案する。

[基準4] 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

【点検・評価項目】

- (1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
- (2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
- (3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を短期大学構成員(教職員及び学生等)に周知し, 社会に公表しているか。
- (4) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

①評価できる点(伸長すべき点, 取組が効果を上げている事項など)
<ul style="list-style-type: none"> ・「1. 生命, 環境, 生物生産, 食品, 利用・流通の各分野に関する幅広い知識を有し, これを応用して社会に貢献できる能力を身につけていること, 2. 「ゼミナール」により, 自ら課題を見出し, それを解決するための能力を有するとともに幅広い教養を身につけていること」と明示している。 ・3つのポリシーを基に, 平成22年度にカリキュラム改革を実施したことは, 教育課程の検証につながる。 ・学生要覧と生物資源科学部ホームページに「教育研究上の目的について」, 「入学者受入れ」, 「教育課程編成・実施」, 「学位授与」各々の方針が明示され, 構成員や社会へ発信・周知されている。

②問題点・今後の課題(改善すべき点, 強化が望まれる事項など)
<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミナール教育を重視しているが, ゼミナール教育の達成目標が明示されていない。 ・学習支援センターをどのように運営されているのか, 添付の資料から知ることはできないが, 学生の利用が少なく, 御苦勞をうかがい知るとともに, システムとして工夫の必要性を感じた。 ・平成22年度以降の適切性の検証が不明である。

③報告書の記載内容に対する評価, コメント	評定		
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B		
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B		
・誤字や脱字, わかりにくい表現はないか。	A		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30px; text-align: center; vertical-align: middle;">コ メ ン ト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション時に配布した「カリキュラムに関わる資料集」がないため, 体系的な教育支援編成が確認できない。 ・教育研究上の目的は, 「基準4 (1) 教育目標を定め明示する」の教育目標と同じと考えてよいのか不明確である。 ・「3つのポリシーを明示し, 教育目標と学位授与方針との整合性を図っている」とあるがどのように整合性を図っているのかが記載されていない。 </td> </tr> </table>	コ メ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション時に配布した「カリキュラムに関わる資料集」がないため, 体系的な教育支援編成が確認できない。 ・教育研究上の目的は, 「基準4 (1) 教育目標を定め明示する」の教育目標と同じと考えてよいのか不明確である。 ・「3つのポリシーを明示し, 教育目標と学位授与方針との整合性を図っている」とあるがどのように整合性を図っているのかが記載されていない。 	
コ メ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション時に配布した「カリキュラムに関わる資料集」がないため, 体系的な教育支援編成が確認できない。 ・教育研究上の目的は, 「基準4 (1) 教育目標を定め明示する」の教育目標と同じと考えてよいのか不明確である。 ・「3つのポリシーを明示し, 教育目標と学位授与方針との整合性を図っている」とあるがどのように整合性を図っているのかが記載されていない。 		

[基準4] 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容

【点検・評価項目】

- (1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
- (2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。

①評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・履修モデルの提示は、現在の学生の要求に合っている。 ・初年次教育として、実験を含む教養科目と導入的な専門科目を配置していることは利点である。 ・「キャリアデザイン入門」の受講率が高いことは望ましいことである。 ・授業科目は、教育課程の編成・実施方針に基づき、適切に開設され体系的に編成されている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生指導の視点で記載されているが、教育課程を編成した教員側からの視点で、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成していることを記載すべきである。アカデミックアドバイザーによる個別の指導や、「キャリアデザイン入門」と「キャリアデザイン概論」の受講指導等の素晴らしい取組は、「IV-（3）教育方法」の「点検・評価項目（1）教育方法及び学習指導」の項に記載すべき内容ではないか。

③報告書の記載内容に対する評価、コメント	評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字、わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目履修の達成度が明示してあるか、達成していない学生をどのように指導しているのかが添付資料から知ることができない。

[基準4] 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法

【点検・評価項目】

- (1) 教育方法及び学習指導を適切に行っているか。
- (2) シラバスに基づいて授業を展開しているか。
- (3) 成績評価と単位認定を適切に行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・初年次生をゼミナール所属とするなどは，アカデミックアドバイザーばかりか，学生指導面でも有効に働いている。 ・英語教育をプレイスメントテストによる学力別に行っていることは適切である。ただし，高いクラスに割り当てられた学生の成績評価，低いクラスに割り当てられた学生の成績評価がどうなっているのか，明確な記載がない。 ・教育目標の達成に向けて，講義・演習・実験を効果的に組み合わせた授業形態がとられている。フィールドサイエンス教育により，体験と実践を重視した教育を実現している。入学直後から全学生を研究室に配属し，研究室教員がアカデミックアドバイザーとして少人数に対するきめ細かい学習指導を行っている。 ・すべての科目の評価方法と評価基準がシラバスに明示されている。適切な成績評価のために，出欠・小テスト・課題・定期試験等の多様な評価方法が複合的に利用されている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニングを取り入れた授業がどのくらいあるのか，記載がない。 ・授業アンケート結果の組織的な検証の結果を公開すべきであろう。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに基づいた授業が行われているかどうかの客観的資料を添えるとよい。 ・「出欠」は，出席状況又は出席回数とすべきではないか。

湘南校舎に対する評価結果

[基準4] 教育内容・方法・成果 (4) 成果

【点検・評価項目】

- (1) 教育目標に沿った成果が上がっているか。
- (2) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
- (3) 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。

①評価できる点（伸ばすべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・GPA制度は，多くの大学で使用され一般的になってきているので，編入学生を受け入れている大学にとって参考になっている。 ・学生の履修状況を教員との面談で確認することは，現在の学生指導に合っている。 ・アカデミックアドバイザー等による学生の進路希望に沿った履修指導が適切に行われ，学習意欲の向上につながっており，進学率や進学後の修学においてその成果が確認されている。 ・学生に対する授業アンケートと進路希望や教育改善に関する調査が，教育課程と教育内容の改善に結びつけられている。 ・短期大学部生物資源学科内で学生の修得単位及び卒業認定について検討するとともに，生物資源科学部と合同開催する卒業判定会議に諮っており，学位授与は適切に行われていると考えられる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
特になし。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		A
コメント	・GPA制度（各大学で異なる場合がある）の資料あるとよかった。	

[基準 5] 学生の受け入れ

【点検・評価項目】

- (1) 学生の受け入れ方針を明示しているか。
- (2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか。
- (3) 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- (4) 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集と入学者選抜を公正かつ適切に実施しているかについて、定期的に検証を行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）

- ・受け入れ方針は、求める学生像としてガイドブックや Q&A 入試ガイドに明示されている。
- ・入試管理委員会は、入試方針や入学試験制度の内容点検、入試情報の入手・解析により入学者選抜を行っている。さらに、入学者の選抜は、生物資源科学部執行部会、短期大学部生物資源学科入試委員会、教授会に諮られ適正に決定されている。
- ・生物資源科学部入試管理委員会は、年度の始めに前年度入試全般についての検証と募集年度の志願者動向の調査と分析を行い、入学者選抜の公正性・適切性の維持に努めている。
- ・推薦入学試験の合格者及び希望者には、入学前教育用科目別 DVD による受講を推奨している。また、推薦入学試験の合格者には、推薦図書 of 読書感想文の提出や過去の入学試験問題解説などを課して、入学後の学習に備えている。
- ・障がいを持つ学生の受け入れについては、入学志願書の提出前に定められた手続きに従って事前協議を行い、受験を許可するか否かの判断をしておき、障がいが入学者選抜の可否に影響しないように配慮している。
- ・入学定員に対する入学者数比率（過去 5 年間平均）及び収容定員に対する在籍学生数比率は、それぞれ 1.07 及び 1.09 であり、定員管理は適正に行われている。
- ・学生募集及び入学者選抜に関するすべての事項は、生物資源科学部入試管理委員会〔構成員として、短期大学部（湘南校舎）次長及び生物資源学科長を含む〕が担当しており、入学試験制度の検証や当該年度の入試方針から各種の入試情報の調査・分析まで行い、学生の受け入れの適切性について検証し、改善につなげている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）

- ・学生募集及び入学者選抜の適切性の検証を実施しているとあるが、どのように「学生の受け入れ方針に基づき、学生募集と入学者選抜を公正かつ適切に実施しているか」を検証しているかの記載が不明瞭である（「この組織で検証している」との記述のみでは不十分）。
- ・求める学生像に関して「生物資源科学部・短期大学部ガイドブック」と「2014 年度版 Q & A 入試ガイド」、「生物資源学科 日本大学短期大学部生物資源科学部併設・湘南校舎」に明示しているとあるが確認できない。
- ・学生の受け入れ方針について、ホームページの「教育情報」には掲載されているが、ガイドブック等その他の刊行物には記載がない。
- ・入学に当たって修得しておくべき知識等の内容・水準等について、ホームページで各授業科目のシラバスを公開することにより周知を図っているとあるが、これは受験生にとっては難しい作業であろう。

湘南校舎に対する評価結果

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本大学短期大学部生物資源学科ホームページを開設し，そこに入学者受入方針と入試情報を公開しているとあるが，入学者受け入れ方針は見つからず，入試情報はリンクがあるだけで生物資源科学部のホームページのみに記載されている。また，短期大学部生物資源学科のホームページに短期大学部生物資源学科の各学科目のシラバスを公開するとあるが見つからない。 ・ 求める学生像や学生の受け入れ方針について，その内容を具体的に記述することが必要である。 ・ 「2. 点検・評価」の記述において，「基準5の充足状況」について記載することが必要である。 ・ 「2. 点検・評価」の「①効果が上がっている事項」に対して，「3. 将来に向けた発展方策」にその取組を更に伸張させるための方策又はその効果を維持するための方策が記載されていない。 ・ 本文中に根拠となる資料を明示することが必要である。

湘南校舎に対する評価結果

[基準 6] 学生支援

【点検・評価項目】

- (1) 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう学生支援に関する方針を明確に定めているか。
- (2) 学生への修学支援を適切に行っているか。
- (3) 学生の生活支援を適切に行っているか。
- (4) 学生の進路支援を適切に行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・履修指導，進路指導，生活指導を行い，学生の大学生生活の支援を行っていることはよいことである。 ・インターカー認定者の割合が多いことは，学生指導にとってよいことである。 ・学生の心身の健康保持に向けた支援については，研究室ごとにインターカー資格を有する教員が対応に当たり，校医や学生相談室とも連携を図っている。 ・進路選択支援については，研究室指導教員と担任が進路指導を行っている。また，4年制大学へ編入学を希望する学生が多いため，1年次4月より併設学部への編入学制度の説明を行っている。 ・修学支援については，学習支援センターを利用し，化学と生物の補修授業を行っている。 ・経済的支援については，日本学生支援機構による奨学金のほか，湘南キャンパス独自の学部後援会奨学金，学部校友会奨学金があり，経済的に困窮している短期大学部の学生にも支援している。また，成績優秀者に対しては学費を免除する特待生制度を設けている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・4年制大学へ編入学する学生数は全体の約70%と多いが，就職する学生数は併設学部と連携して就職支援を行っているが約10%，進路未定の学生が全体の約20%いることから，本年度から実施する短期大学部独自の就職ガイダンスに期待している。 ・湘南キャンパス独自の奨学金の学資援助体制を持っているが，支給者がいないので制度の充実が望まれる。 ・退学者数が全体の5%ほどであることを考慮すると，インターカー制度のさらなる有効利用が望まれる。 ・学習支援センターの利用率が少なく，工夫が必要である。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。		B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。		A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。		A
コメント	特になし。	

[基準 7] 教育研究等環境

【点検・評価項目】

- (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。
- (2) 十分な校地・校舎及び施設・設備を整備しているか。
- (3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。
- (4) 教育研究等を支援する環境や条件を適切に整備しているか。
- (5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究室の拡張を行い，ゼミナールで研究室に所属する学生の実験及び自学の場を設けた。 ・ 藤沢市建物緑化コンクール優秀賞を受けた。 ・ 校地・校舎面積は短期大学設置基準上必要となる面積を上回っており，湘南キャンパス内にある共同研究施設，体育館などは併設学部と共用しており，屋上壁面緑化を採用することも教育研究に有効に活用するとともに環境面にも配慮され，安全性，利便性の向上につながるキャンパス整備を行っている。 ・ 図書館は併設学部と共用しており，専門図書や文献などがとても充実している。また，開館時間，閲覧スペースなど学生の利便性にも配慮しており，研究・教育上必要な環境が整備されている。 ・ 教員の研究業績の支援については，定額研究費配分基準による固定の個人研究費のほか，研究業績の多い教員には成果研究費配分基準により，研究費の増額を行っている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生物資源科学部長より説明が周知されているとあるが，教育研究は現場の声を如何に受け入れ，それを組織として実行していくかが重要なことである。トップダウンも重要であるが，ボトムアップも必要ではないか。各委員会がその役割を担っているなら，そのように記述された方がより明確となる。 ・ 研究倫理は，組織として対応することが望ましく思える。委員会設置の検討が望まれる。 ・ 専用校舎のバリアフリー化が未対応であるが，車椅子エレベータ新設計画を加速することに期待している。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評価
・ 点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・ 記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・ 誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コ メ ン ト	・ 研究環境が整っているので，教員の研究業績が更に上がることを期待する。

湘南校舎に対する評価結果

[基準 8] 社会連携・社会貢献

【点検・評価項目】

- (1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか。
 (2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・社会へのサービス活動や教育システムを通じた貢献，地域社会との連携による貢献として，藤沢市の六会公民館との共催形式で実施している「六会市民講座」，神奈川県下の総合高校18校との協定締結による「カレッジインターンシップ」，生物資源科学部資料館の「企画展示」，「理科実験セミナー」，「サイエンスセミナー」，生物資源科学部生物環境科学研究センターの「児童・生徒や教諭等を対象とした環境教育プログラム」，「ビオトープ管理者養成講座」，「藤沢市自然環境実態調査」，「1者1村しずおか運動」等，様々な活動を行っており，教育研究の成果を適切に社会に還元している。 ・12名の教員全員が論文等の研究活動又は各種学会等で役員，幹事，委員等として社会的貢献活動を行っている。

① 問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・社会連携・社会貢献に関する方針について，短期大学部（湘南校舎）や生物資源学科の理念を踏まえて定め，明確化するとともに，それを教職員で共有することが望ましい。 ・社会連携・社会貢献の適切性について，組織的に検証する体制が明確に示されていない。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コメント <ul style="list-style-type: none"> ・「2. 点検・評価」の記述において，「基準8の充足状況」について記載することが必要である。 ・「2. 点検・評価」の「①効果が上がっている事項」に対して，「3. 将来に向けた発展方策」にその取組を更に伸張させるための方策又はその効果を維持するための方策が記載されていない。 ・本文中に根拠となる資料を明示することが必要である。 	

湘南校舎に対する評価結果

[基準9] 管理運営・財務 (1) 管理運営

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。
- (2) 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。
- (3) 短期大学業務を円滑に行う事務組織を設置し、十分に機能させているか。
- (4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学長，短期大学部（湘南校舎）次長，学科長等の所要の職を置き，教授会，各種委員会等の組織を設け，明文化された規程に基づいて管理運営を行っている。 ・短期大学部の組織については「日本大学教育職組織規程」に明文化されており，短期大学部学長は日本大学学長が兼ねており，短期大学部次長も併設学部学部長の意見を聞いて学長が任命している。 ・管理運営については，教授会が「日本大学短期大学部学則」に基づき設置され，その権限と役割が明確に記されており，教学上重要な事項の審議を行っている。 ・事務組織は併設学部と一体化されており，「日本大学事務組織規程」及び「事務分掌規程」に基づき編成され，各組織は業務のマニュアル化・システム化を行い，業務の効率化と正確性の向上を図っている。また，各委員会にも職員が適切に配置されており，教員との連携も図られている。 ・職員の採用・昇格等に関する諸規程を整備し，その適切性・透明性を担保した運用をしている。 ・外部から講師を招く講演会や新規採用職員の研修発表などの内容で事務局研修会を実施しており，事務職員の質の向上に努めている。 ・事務職員の意欲や専門的知識・能力の向上を図るため，各事務課から選抜された職員で構成されるSD委員会を組織し，講演会や発表会を行っている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・中・長期的な管理運営方針について，具体的な記載がないため，策定しているかどうか不明である。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・本文中に誤字等があるので修正したほうが良い。 ・「2. 点検・評価」の記述において，本基準の充足状況について記載することが必要である。 ・「2. 点検・評価」の「①効果が上がっている事項」に対して，「3. 将来に向けた発展方策」にその取組を更に伸張させるための方策又はその効果を維持するための方策が記載されていない。 ・本文中に根拠となる資料を明示することが必要である。

湘南校舎に対する評価結果

[基準 9] 管理運営・財務 (2) 財務

【点検・評価項目】

- (1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。
 (2) 予算編成及び予算執行を適切に行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金については，外部資金獲得を支援するための研究支援センターを設置し，申請に向けた取組が行われており，平成 22～24 年度において各年 1 件採択されている。 ・理事会により承認された大学の予算編成基本方針に基づき，各学部が予算編成を行っており，短期大学部（湘南校舎）は生物資源科学部に併設する形態をとっている。 ・決算については，法人監事及び公認会計士により内部監査が実施されている。 ・研究支援センターを設置し，科学研究費補助金及び受託研究費等の外部資金の獲得増加や研究活動の活性化を図っている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・大学の予算編成基本方針の目標値（消費収支比率が 100%を超えない，消費支出比率が 95%以内）が，平成 24 年度実績では達成されていないので，比率の改善に向けた取組が必要である。 ・研究支援センターを設置し，外部資金の獲得増加を図っているが，平成 24 年度の科学研究費補助金及び受託研究費について，前年同時期と比べて大きな変化はないので，更なる改善が望まれる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評価
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「2. 点検・評価」の記述において，本基準の充足状況について記載することが必要である。 ・本文中に根拠となる資料を明示することが必要である。

[基準 10] 内部質保証

【点検・評価項目】

- (1) 短期大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。
- (2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。
- (3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。

①評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学部自己点検・評価委員会を設置し、定期的（3年ごと）に自己点検・評価を実施し、その結果を自己点検・評価報告書としてまとめ、日本大学のホームページ上で公開するなど社会に対して公表している。 ・併設学部と共に ISO14001 環境マネジメントシステムを導入しており、ISO 委員会を設置し、「環境保全ガイドブック」、「環境管理マニュアル」に基づき、運用・点検を行っている。 ・生物資源科学部「環境宣言と環境行動方針」に基づき、環境側面調査を毎年行って環境実施計画書を作成しており、そこに設定された内容が実行に移されているかについて、毎年実施される内部監査により点検し、その結果はマネジメントレビューとして執行部及び各責任者に報告され、外部審査機関の実施査察による評価を受けている。

②問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開の範囲や方法のルールに基づいた情報公開請求への対応が不明である。 ・内部質保証に関するシステムについて、具体的な手続や各組織（委員会等）間の関係が明確でない。 ・短期大学部（湘南校舎）構成員のコンプライアンス（法令・モラルの遵守）意識を徹底するための取組が不明である。 ・内部質保証の取組の客観性・妥当性を高めるための工夫に関する記述がない。

③報告書の記載内容に対する評価、コメント	評定
・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	B
・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	B
・誤字や脱字、わかりにくい表現はないか。	B
<div style="display: flex;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; background-color: #e0e0e0; padding-right: 5px;">コメント</div> <div> <ul style="list-style-type: none"> ・「2. 点検・評価」の記述において、本基準の充足状況について記載することが必要である。 ・「2. 点検・評価」の「①効果が上がっている事項」に対して、「3. 将来に向けた発展方策」にその取組を更に伸張させるための方策又はその効果を維持するための方策が記載されていない。 ・「2. 点検・評価」の「②改善すべき事項」に対して、「3. 将来に向けた発展方策」にその改善方策が記載されていない。 ・本文中に根拠となる資料を明示することが必要である。 </div> </div>	

[基準 11] 特色ある取り組み

【点検・評価項目】

(1) 短期大学が組織的に行っているユニークな取り組みの実施状況とその有効性

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤沢市の六会公民館と生物資源学科の共催で講義と実習を兼ねた市民講座を年6回実施しており，教育内容や専門領域について地域住民に一層理解を広める機会となっている。 ・ 神奈川県総合高等学校校長会との間にカレッジインターンシップの協定を結び，カレッジインターンシップテキストを用いて演習・実習を行っている。これらの運営に学生を参加させ，地域住民や高校生との交流等を通じて，学内では経験できない体験の場を提供している。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント	評定
・ 点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
・ 記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
・ 誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	B
<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語句の表記方法に統一性が無い箇所があるので統一すべきである。また，一部の文章に意味が読み取れない文章があるので，文章の見直しをすることを望む。 ・ 「2. 点検・評価」の「①効果が上がっている事項」に対して，「3. 将来に向けた発展方策」にその取組を更に伸張させるための方策又はその効果を維持するための方策が記載されていない。 ・ 「2. 点検・評価」の「②改善すべき事項」に対して，「3. 将来に向けた発展方策」にその改善方策が記載されていない。 ・ 藤沢市六会公民館との共催で，市民講座を行っていること素晴らしいことである。 	

湘南校舎に対する評価結果

[湘南校舎評価総括]

評価概況
<ul style="list-style-type: none">・短期大学の在り方が問われる中、4年制大学への改組が検討されている。・短期大学部として必要な組織作りや運営が、おおむね良好になされている。指摘事項を検討の上、更なる発展を期して頂きたい。
評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none">・緑豊かな広大な湘南キャンパス内にあるため、図書館等の施設も併設学部と共用しており、屋上壁面緑化を採用することも教育研究に有効に活用するとともに環境面にも配慮され、安全性、利便性の向上につながるキャンパス整備を行っている。・藤沢市の六会公民館との共催形式で市民講座を実施しており、教育内容や専門領域を地域住民に一層理解を広める機会となっており、学生にとっては地域住民や高校生との交流などを通じて普段の授業や実習等では経験できない体験の場となっている。・アカデミックアドバイザーによる個別の指導により、きめ細やかな学生指導を実現している。・「キャリアデザイン入門」と「キャリアデザイン概論」の開設によるキャリア教育の構築が図られている。・フィールドサイエンス教育により、体験と実践を重視した教育を実現している。
問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none">・4年制大学へ編入学する学生数は全体の約70%と多いが、就職する学生数は併設学部と連携して就職支援を行っているが約10%、進路未定の学生が全体の約20%である。また、退学者数が全体の約5%いるので、インターカー制度等の更なる有効利用が望まれる。・入学前教育として、通信添削方式によるDVD教材や推薦図書の読書感想文や過去の入学試験問題解説等が課され、また高大接続教育として、学習支援センターによる学習相談や生物と化学の補習授業がなされている。しかし、少子化による入学者の低学力化に対応するためには、更なる強化が望まれる。
その他
<ul style="list-style-type: none">・「IV-3 教育方法」において、「生物資源科学部への推薦編入」、「進学に関わるモチベーションの維持」など意味が読み取れない語句があるほか、主語が不明な文章があるため、文章を見直し修正する必要がある。・「V 学生の受け入れ」において、「短期大学部生物資源科学科ホームページにおいて入学者受け入れ方針と入試情報を公開している」とあるが、学部のホームページにしか掲載されていないと思われる。・「点検・評価報告書」の作成マニュアル（大学基準協会）に従って、基準ごとの「2. 点検・評価」の記述において、「基準の充足状況」について記載することが必要である。・「2. 点検・評価」の「①効果が上がっている事項」について記述した場合は、「3. 将来に向けた発展方策」にその取組を更に伸張させるための方策又はその効果を維持するための方策を記載することが必要である。・「2. 点検・評価」の「②改善すべき事項」について記述した場合は、「3. 将来に向けた発展方策」にその改善方策が記載することが必要である。・本文中に根拠となる資料を明示することが必要である。

以上

平成 25 年度外部評価報告書

－短期大学部－

平成 26 年 3 月発行

発行 日本大学
編集 日本大学全学自己点検・評価委員会
事務局 日本大学本部総務部監査課
〒102-8275 東京都千代田区九段南 4-8-24
電話 03-5275-8138
E-mail kansaka@nihon-u.ac.jp

